令和５年度

学校経営方針

三鷹の森学園三鷹市立高山小学校　校長　　吉村　達之

Ⅰ　はじめに

教育は、教師の絶え間ない情熱と深い愛情、揺るぎない使命感と真の責任感があってこそ、はじめて本物となる。一人一人の子どもが、知・徳・体の調和のとれた力を基に、個性をいかして能力を伸ばし、自信をもって未来に羽ばたけるようにすることは、私たち教師の使命である。そのためには、子どもが希望をもって安心して学び続けられる環境を整え、子どものことを第一に考え、温かく、丁寧に指導にあたることが必須である。

三鷹の森学園三鷹市立高山小学校は、東京都及び三鷹市の教育目標・基本方針にのっとり、本学園及び本校の教育課程に基づいて、児童の確かな学力の向上と人間的な成長を図り、子ども一人一人にとって自分の居場所があり、本校の児童であることに自信と誇りがもてるきめ細やかな教育活動を展開していく。そして、「児童力」「教職員力」「保護者力」「地域力」から成る「学校力」を醸成し、保護者や地域からの期待にこたえられる学校づくりを進め、「高山小、大好き！」と子どもからも大人からも言われる学校であることを目指す。

Ⅱ　学園および本校の教育目標

三鷹の森学園は、幅広い知識と教養、真理を求める態度、豊かな情操、健全な心身など全人格的に調和のとれた人間力の育成を目指すとともに、情報化、グローバル化等のさらなる進展を踏まえて、次の４つの資質・能力の育成を通じて小・中一貫教育を実現する。

ア　社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力
イ　自ら問題を発見し、筋道を立てて考えたり、試行錯誤をしたりしながら問題を解決する力
ウ　多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力
エ　困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力

高山小学校は、三鷹の森学園の教育目標を踏まえ、４つの子ども像を目指す。

・考える子ども　　・心豊かな子ども　　・じょうぶな子ども　　・実行する子ども

令和５年度は「考える子ども」を重点目標とし、更なる学力向上をめざす。

１．目指す学校像

○　安心して子どもを任せることができる学校　※
○　子どもや保護者、教職員、地域が信頼と誇りをもてる学校
○　地域に密着しながら、地域と協働する学校

２．目指す学校像を具現化するための具体的方策

「安心して子どもを任せることができる学校」　※最重点目標

⑴　個別最適な学びと協働的な学びを実現し、確かな学力の定着を図る。

①学習指導要領の理念に基づき、三鷹の森学園カリキュラム・マネジメント・ガイドを活用した、個別最適化された学習の確立
②中学校卒業時の９年後を見据えた小学校における指導の工夫（中学校へ円滑につながる指導）
③英語専科教員、英語教育推進部を中心とした児童の英語によるコミュニケーション能力の向上と「英語の日常化」を図る取組の推進、東京都英語村ＴＧＧでの英語体験学習の実施（５・６年時）及び外国語科（外国語活動）の授業力の向上のための研修の充実
④算数専科教員２名体制による、第３学年以上で実施する習熟度に応じた算数の指導法の工夫・改善
⑤マイスターを中心に個別最適化された学習の実現に向けた、タブレットやICT機器、デジタル教科書の有効活用の工夫
⑥社会の変化に対応できるデジタルシティズンシップ教育の充実
⑦一部教科担任制の実施と活用（教員の専門性をいかした指導と学年としてのより良い集団作り）
⑧教科等を超えたすべての学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成

⑵　児童理解に基づいた、温かく思いやりのある学年・学級経営を行う。

①児童の気持ちに寄り添う、一人ひとりの児童の立場に立った指導
②児童が発する心のサインを見逃さないきめ細かい指導と自らＳＯＳを発信できる児童の育成
③担任に加え、複数の教員や複数のカウンセラーによる多面的な児童理解と情報交換による指導
④偏見や差別、いじめや暴力などを決して許さない教師の毅然とした態度と問題の早期発見に向けた工夫（「三鷹市いじめ防止対策推進基本方針」などに基づく適切な対応）
⑤児童の意見を表明する権利を確保するため、児童の意見を聞く機会の積極的な設定

⑶　健康教育・安全教育の充実を図り、子どもの安全を確保する。

①感染予防対策と両立できる健康・体力・運動能力の増進のための教育活動の工夫
②食育の推進と給食事故の防止（校長・副校長・教員・栄養士・調理委託業者との密な連携）
③保健指導を通しての健康増進（けがや病気をしない、させない防衛体力の増進）
④校内の施設や設備の安全点検（危機管理の視点に立った複数の職員による複数回の点検の徹底）
⑤系統的・先進的な防災教育の充実と日常的な防犯対策（非常事態に適切に即応できる児童の育成）
⑥感染症などにかからないための日常的な予防策の徹底

⑷　個別最適化を踏まえ、教育支援の充実を図る。

①教育支援学級（わか竹学級・つばさ学級）と通常の学級やスクールカウンセラー、児童相談所や子ども家庭支援センター、関係医療機関など外部諸機関との連携、並びに児童に対する支援の充実
②教育支援主コーディネータを中心とした、通常の学級における個別最適化された指導・支援体制の整備、並びに個々の児童が自分のよさを発揮できる指導体制の確立
③特別支援学校及び地域と連携した副籍制度による交流の促進
④ユニバーサルデザインを踏まえた一人一人のニーズに応じた合理的配慮に基づく対応

「子どもや保護者、教職員、地域が信頼と誇りをもてる学校」

⑴　基本的な生活習慣と社会規範の定着を図る。

①家庭への啓発と強い連携による基本的な生活習慣の確立（保護者・地域との密な連絡）
②高山小学校の生活指導の基本「生活の　さ・し・す・せ・そ」を踏まえた全教職員の共通理解の下での指導（各学年・各学級）
③道徳推進教師を中心に「特別の教科　道徳」の授業や道徳授業地区公開講座の活用など、学校の教育活動全体を通した道徳教育の推進（指導方法の工夫・改善）

⑵　学び続ける教師集団であり続ける。

①学園・校内研究をはじめとする各種研修の充実と積極的な参加（自己の能力を常に高めていく教師）
②保護者や地域からの相談や苦情に対する真摯で迅速な対応（課題の発見と改善）
③OJT推進委員会を中心とした若手教員の育成（すべての教師がともに成長していこうとする教師集団）

⑶　服務の厳正を徹底し、働き方改革を推進する。

①出退勤や出張・休暇の入力など、日常の些細なこともおろそかにしないという服務の徹底（凡事徹底）
②教職員一人ひとりの自覚に基づく「服務事故を絶対に起こさない」という決意
③教職員の仕事に対する意識改革に基づく職務の効率化と働き方改革に資する環境整備推進、実働時間の減少の工夫（全教職員の月残業時間４０時間以下の実現）

「地域に密着しながら、地域と協働する学校」

⑴　スクールコミュニティを目指し、地域の活力をいかした協働活動を推進する。

①教育活動や地域行事を活用しての地域の一員としての意識の醸成（「三鷹の森」の子どもの育成）
②学校３部制の実現に向けた１部の充実と、学校としての２部の取組への積極的な協働
③児童が参加しやすい行事やボランティア活動の設定の地域への働きかけ（地域のよさの体験）

⑵　学園・学校の様子や学校の目指す方向を地域に発信する。

①保護者会や学校公開、各種学校行事の内容の充実（口コミによる情報発信）
②保護者（ＰＴＡ）、ＣＳ委員会、地域諸団体、地域社会との密なコミュニケーションの推進
③学園・学校・学年・学級だより、保護者連絡帳やホームページを活用した情報発信

⑶　「三鷹の森」ならではの地域人財をより一層活用し、教育活動の更なる充実を図る。

①地域未来塾はじめとする教育活動への地域人財（保護者や近隣大学の学生を含む）の積極的活用
②スクールコミュニティ実現に向けた新たな取組に合致する地域人財の開拓と継続性の確保